

分野別方針6 スポーツ

～スポーツに親しむ機会に恵まれたまちを目指す～

基本方針

体育振興会や学校、競技団体、企業などの京都市域の各主体及びそれらを調整し、まとめる行政が一体となり、だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支えあうまちづくりを進める。

現状・課題

- 指定管理者制度（公の施設の管理運営に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や、経費の節減等を図ることを目的とする制度）の導入により、施設の効率的な運営と、利用者のニーズに応じた柔軟な施設運営が可能になった。
- 所管施設や設備の老朽化が進行しており、市民に満足していただける施設の供用や事業の展開が困難になる可能性がある。
- 多様化する利用者のニーズに応じた施設の提供が更に必要である。
- 財政状況が厳しく、内陸都市であることから、活動用地の新たな確保が困難である。
- スポーツ施設設置に関し府市協調の促進が必要である。
- 西京極総合運動公園等で、市民がトップレベルのスポーツに間近にふれる機会が増えてきている。
- 新しい気風を受け入れやすい土壌をスポーツ振興にも活かすことができる。
- 全国に類のない市民スポーツ団体として組織される体育振興会は、地域における市民スポーツの普及・振興の大きな原動力となっている。
- ネーミングライツ（命名権）の導入をはじめとした市内企業による支援が進んでいる。
- 世代交代に伴い、支えるスポーツの担い手である体育振興会、体育指導委員、体育協会の新たなかつ安定的な人材確保や育成支援が必要である。

◆ スポーツ施設（西京極総合運動公園）の稼働率は総体では横ばい傾向

(単位：%)

施設名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	陸上競技場	27	28	25	27
補助競技場	46	37	45	39	38
野球場	46	38	54	54	56

◆ プロスポーツイベント（京都サンガF.C. 試合）の入場者数は平成20年度に過去最高を記録

年度	入場者数
17年度（J2）	172,846人
18年度	166,280人
19年度（J2）	159,105人
20年度	232,671人
21年度	189,149人

◆ 市民スポーツフェスティバル（メインフェスティバル）には6,000人近くの市民が参加

年度	参加者数
17年度	5,324人
18年度	5,341人
19年度	5,306人
20年度	5,888人
21年度	5,877人

政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 市民の誰もが、うれしいのある生活を送るため、それぞれの年齢や個性、環境に応じて、スポーツやレクリエーションを楽しめる機会の提供や施設整備により、スポーツやレクリエーションを楽しめるまちとなっている。
- 市民がプロスポーツをはじめ、トップレベルのスポーツに身近に触れられるまちとなっている。
- 体育振興会、体育指導委員、体育協会の新たな、安定的な人材確保や育成支援により、多様なスポーツ活動が支えられているまちとなっている。

<政策指標>

	指標	現況値	目標値
1	スポーツ施設（地域体育館）の利用件数	19,372件 ^(H20)	30,000件
2	プロスポーツ・全国規模大会の開催日数（延べ日数）	76日/年 ^(H20)	120日/年
3	スポーツ事業ボランティア参加者数（延べ人数）	1,457人 ^(H21)	3,000人

市民と行政の役割分担と共汗

